



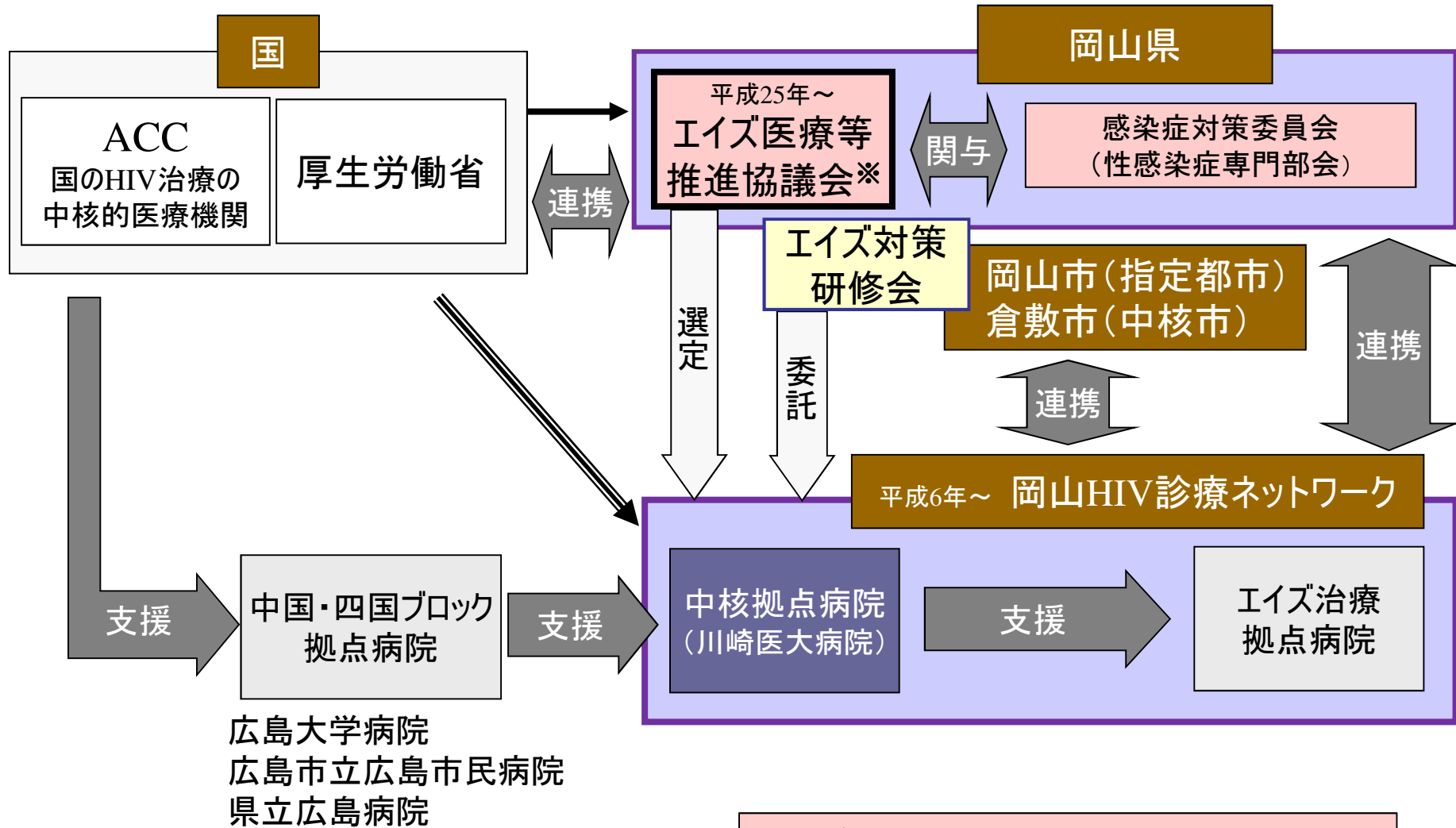
報告2 岡山県の現状と取組

エイズ拠点病院からみた取組

川崎医科大学 血液内科学
川崎医科大学附属病院 血液内科
(岡山県エイズ治療中核拠点病院)
和田 秀穂



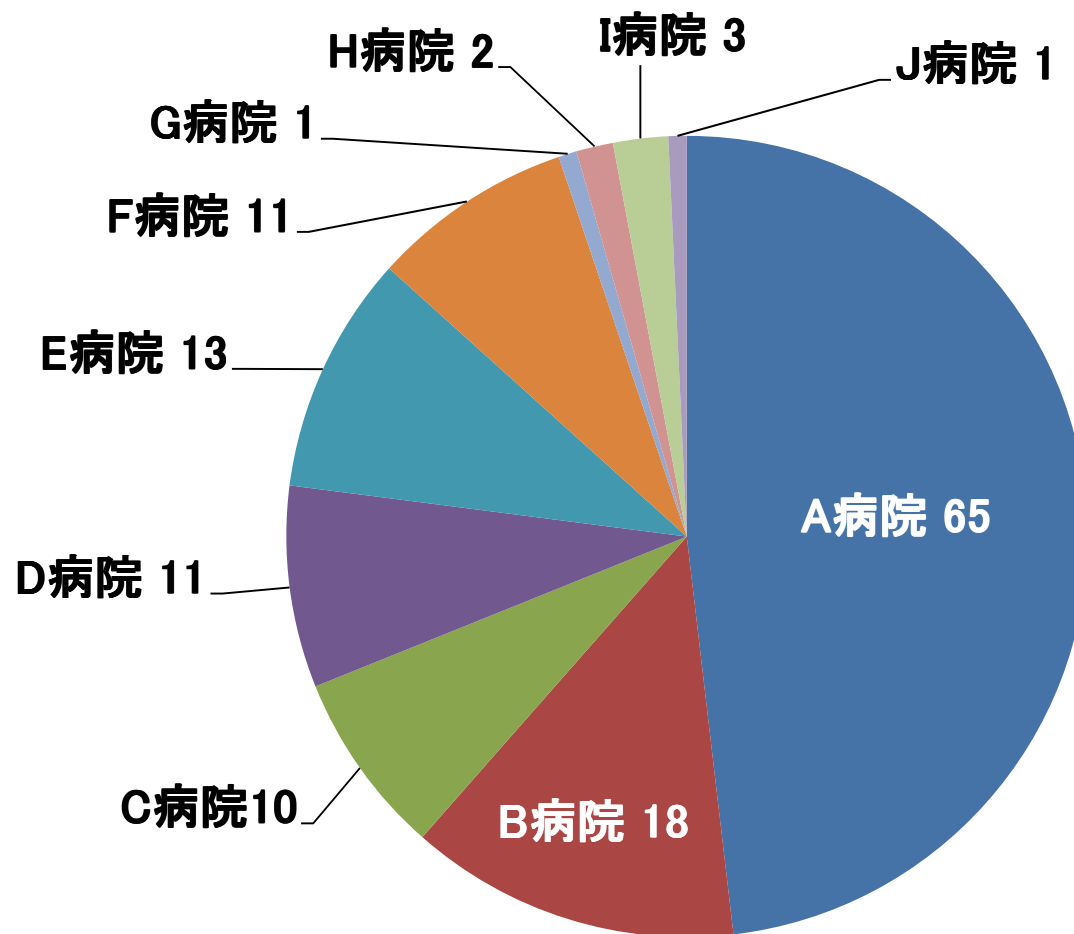
岡山県におけるエイズ医療体制



※以前は エイズ治療拠点病院連絡会議

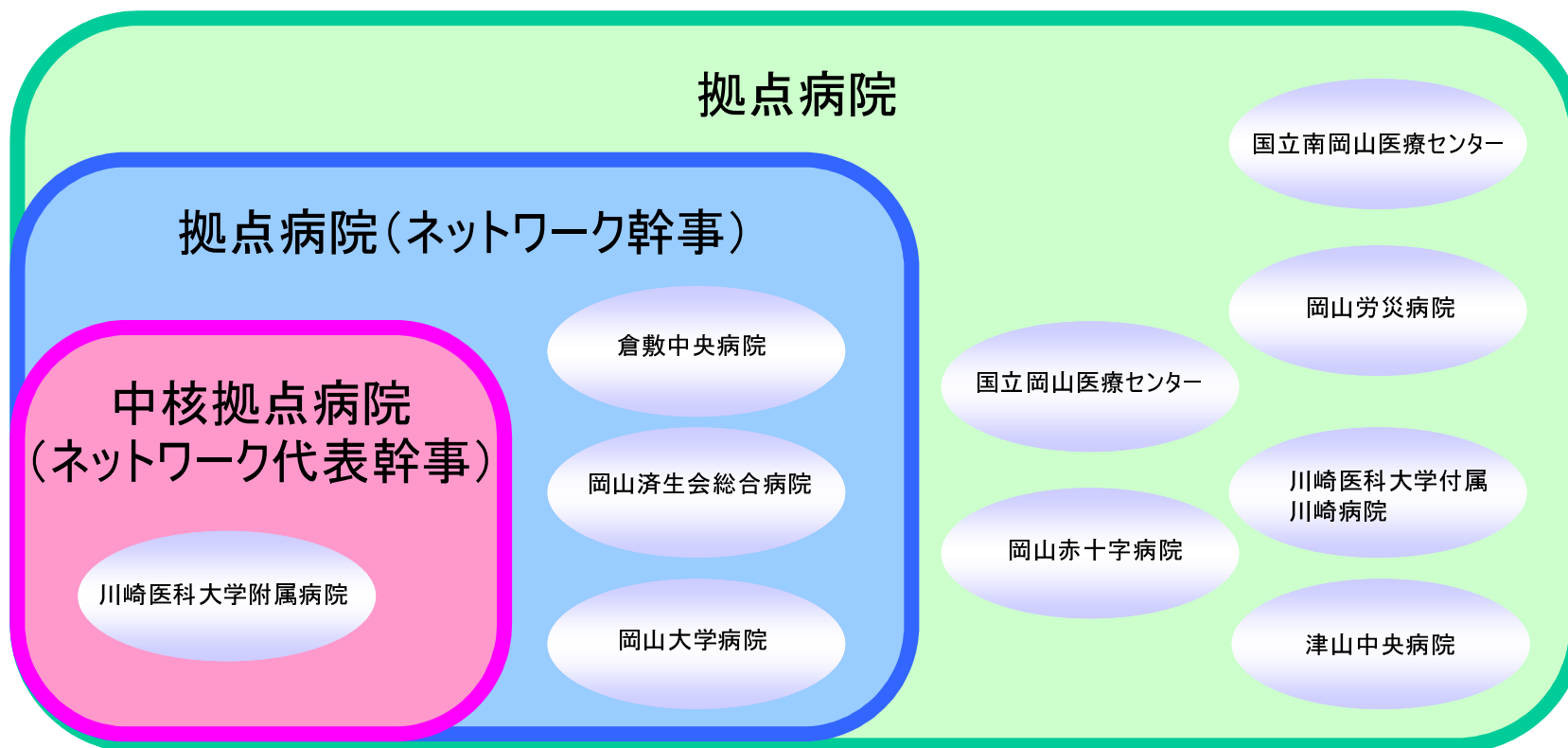
岡山県内各拠点病院の診療状況(事前アンケート調査)

数字は、**平成23年9月時点**で診療している実患者数。名簿順。



岡山HIV診療ネットワークを中心とした岡山県エイズ医療体制

500床以上の大規模病院が9病院、200～499床の中規模病院が1病院である。



年に6回開催：研究会は年4回(幹事病院の持ち回り)
：特別講演会は年2回(3月と9月)

岡山 HIV 診療ネットワーク 第 122 回研究会のご案内

岡山県は全県を挙げてHIV感染防止と「いきなりAIDS」防止に取り組んできたことにより、AIDS/感染者新規報告比率は平成23年以降43.8%、26.7%と減少し、平成25年には15.8%となりました。引き続き、感染防止に取り組む機運を醸成し関係者一丸となって「おかもえイズ感染防止作戦」を推進していきたいと思っております。さて今回の研究会は医師以外のメディカルスタッフからの発表が主です。それでは、多数の皆様のご参加をお待ちしております！（川崎医大会場は、昨年から11階病棟の研修センターに変更しています）

日時：平成 26 年 7 月 29 日（火曜日） 午後 6:40～8:30

場所：川崎医科大学附属病院臨床教育研修センター（本館 11 階）

倉敷市松島 577

TEL.086-462-1111(代表)

当番世話人：渡邊 三恵子（川崎医科大学附属病院看護部）

和田 秀穂（川崎医科大学血液内科学）

①6:40～6:50 報告 司会：渡邊三恵子

「平成 25(2013)年エイズ発生動向～岡山県～」

和田秀穂/川崎医科大学血液内科学

②6:50～7:10 話題提供 1 司会：徳永博俊

「ART レジメンの変遷と服薬の現況」

二宮洋子/川崎医科大学附属病院薬剤部

③7:10～7:30 話題提供 2 司会：徳永博俊

「ソーシャルワーカーの実践～患者のエンパワメントについて考える」

小野由起/川崎医科大学附属病院医療福祉相談室

～休憩～

④7:40～8:00 話題提供 3 司会：渡邊三恵子

「HIV 診療チームにおける心理士の役割」

吉武亜紀/川崎医科大学附属病院臨床心理センター

⑤8:00～8:20 話題提供 4 司会：和田秀穂

「HIV チーム医療における看護師の役割～多職種連携のポイント～」

渡邊三恵子/川崎医科大学附属病院看護部

-----主催：岡山 HIV 診療ネットワーク-----

岡山 HIV 診療ネットワーク 第 123 回研究会のご案内

平成26年8月29日に、岡山県内で「中国四国ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会」が開催されます。岡山県の現状と取組報告をしながら、振り返りと今後の展望を考えるよい機会であると捉えています。さて、今回の研究会は待ちに待った年に2回の特別講演会です。日頃から大変お世話になっている中国四国ブロック拠点病院の広島大学病院から講師をお招きし、ニーズの高い話題をお話しいたします。知識を深める絶好のチャンスです。初秋の土曜日の午後、多数の皆様のご参加をお待ちしております！

日時：平成 26 年 9 月 6 日（土曜日） 午後 2:00～4:30

場所：岡山国際交流センター B1 階レセプションホール

岡山市北区奉還町 2 丁目 2-2 TEL.086-256-2905

当番世話人：渡邊三恵子（川崎医科大学附属病院看護部）

和田 秀穂（川崎医科大学 血液内科学）

特別講演会：

①2:00～2:15 報告

「平成 26 年度中国四国ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会
などの報告」

川崎医科大学血液内科学 和田秀穂

②2:15～3:15 特別講演①

司会：川崎医科大学附属病院看護部/西村瑞穂

「広島大学病院 HIV 医療チームにおける看護師の活動と人材育成」

広島大学病院看護部 I 外来(内科) 木下一枝副看護師長

～休憩～

③3:30～4:30 特別講演②

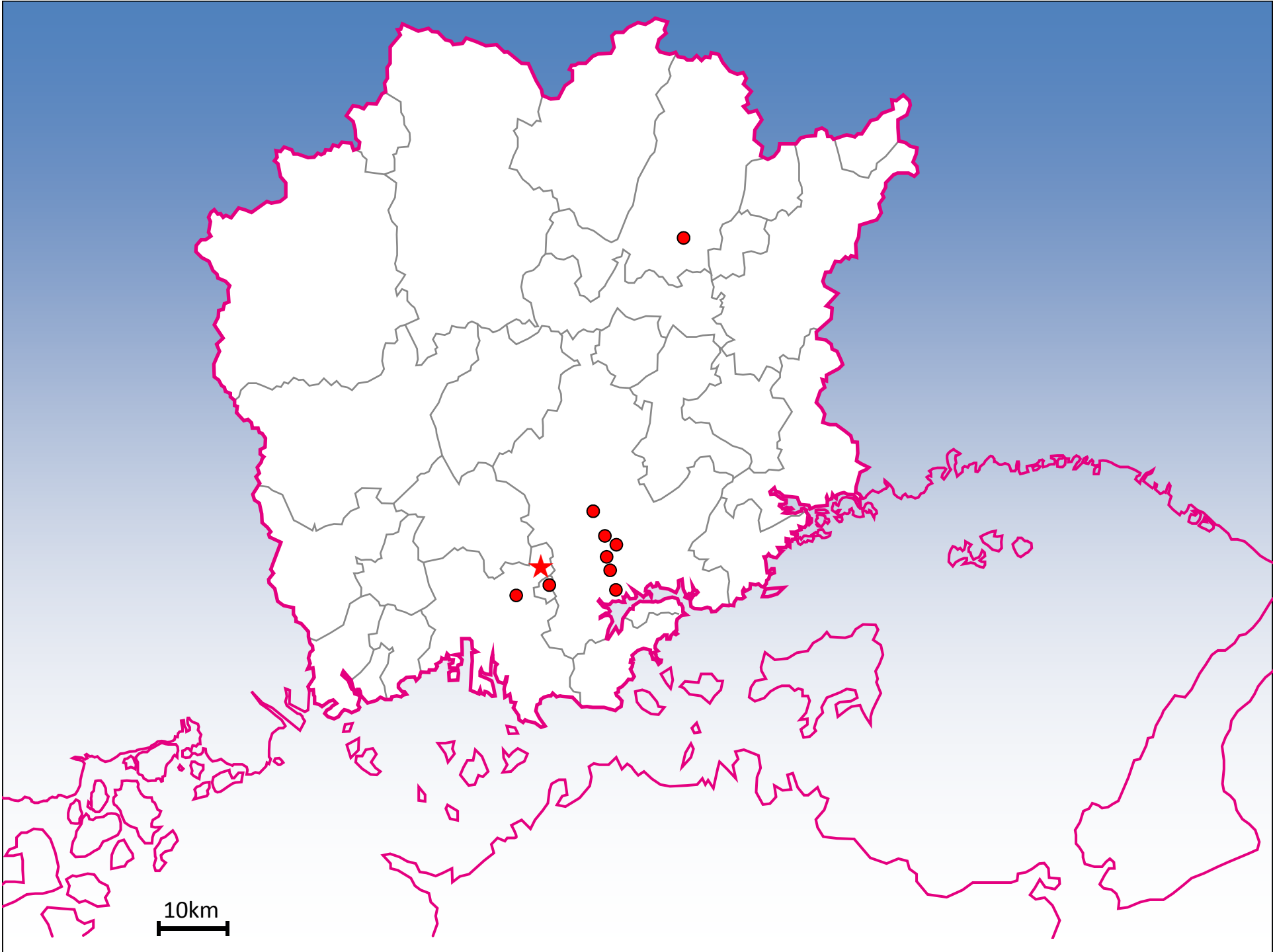
司会：川崎医科大学血液内科学/和田秀穂

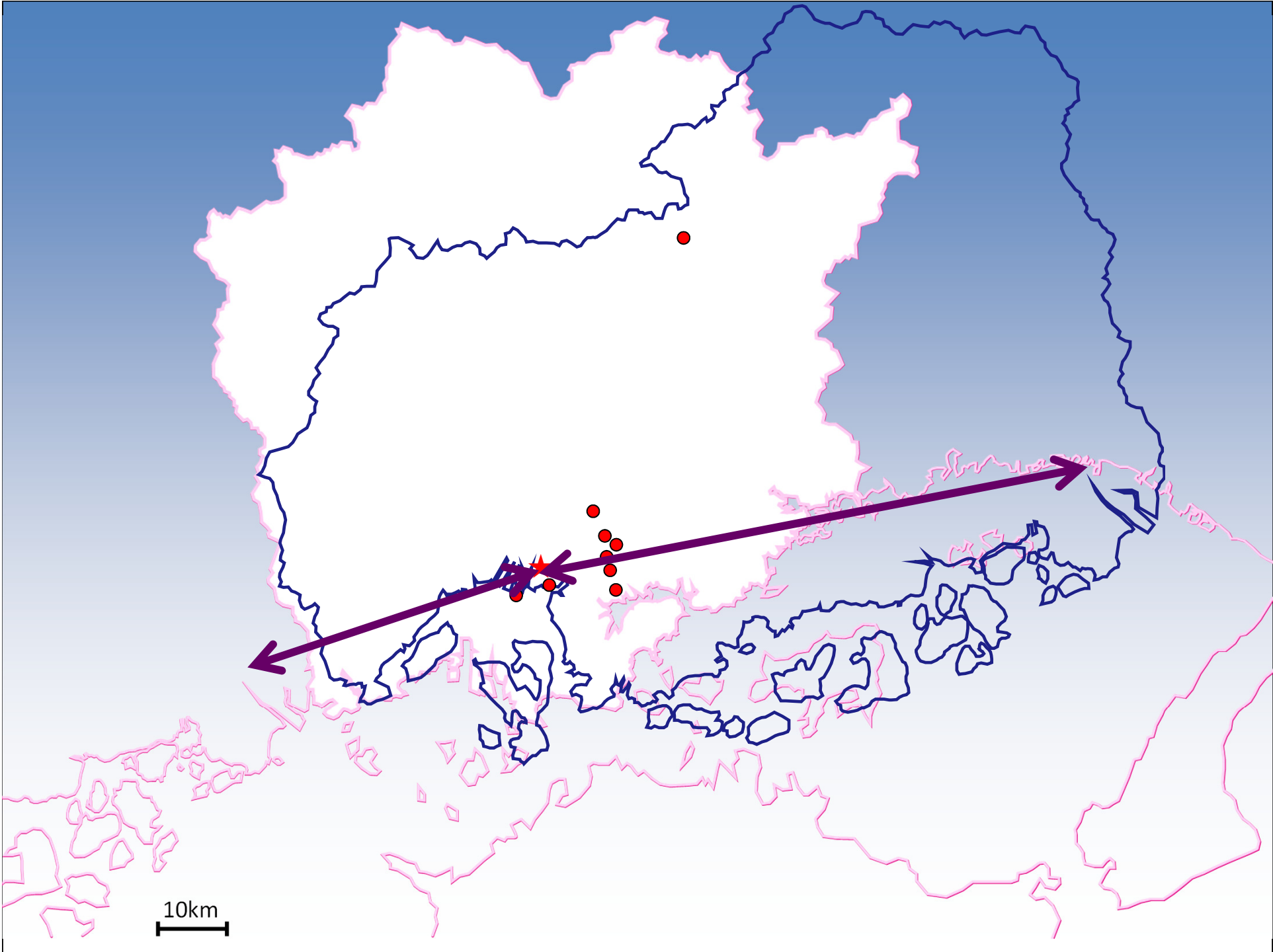
「広島大学病院におけるエイズ診療の変遷～

困難事例を振り返りながら～」

広島大学病院輸血部 藤井輝久部長

主催：岡山 HIV 診療ネットワーク*





Title

講演/研修会活動（平成21～26年）

Key word：日常診療・生活習慣病

●備前

国立病院機構 岡山医療センター
岡山済生会総合病院
総合病院岡山赤十字病院
岡山労災病院
川崎医科大学附属川崎病院
岡山協立病院
岡山県病院薬剤師会西地区
和気医師会
岡山市医師会
岡山市耳鼻咽喉科専門医会（十六夜会）
岡山医療福祉専門学校
就実大学薬学部

●備中

児島中央病院
総合病院水島共同病院
しげい病院
倉敷成人病センター
松田病院
倉敷第一病院
笠岡第一病院
まび記念病院
井原医師会訪問看護ステーション
倉敷市内科開業医会
児島医師会（若手の会）
倉敷医師会（三月会）
川崎医療福祉大学

Title

講演/研修会活動（平成21～26年）

Key word：日常診療・生活習慣病

●美作

津山中央病院(隔年)

美作医師会

美作大学・美作大学短期大学

●岡山県全域

岡山県エイズ対策研修会

岡山県医療ソーシャルワーカー会議

岡山県歯科医師会講習会

神戸薬科大学岡山支部研修会

岡山県保険医協会

岡山県臨床検査技師

岡山県医師会皮膚科部会

岡山県臨床心理士会

●備後

福山医療センター

広島県病院薬剤師会東支部

福山市医師会(備後血液疾患)

●その他

桑名東医療センター

広島大学エイズ医療対策室

広島県薬剤師会

東広島地区医師会

坂出市医師会

高松第一高等学校

Title

マスメディア等での活動

●テレビ放送など

- OHKスーパーニュース(年1回)
- NHKニュースコア6岡山
- RSKラジオ

●新聞社

- 山陽新聞
- 朝日新聞
- 津山朝日新聞

第3種郵便物認可

HIV検査

誤解、偏見普及のネック

県内の男性患者事例

「1月からHIV(エイズウイルス)検査普及活動が始まり、県内でも保健所で活動が展開される。HIV治療の進歩で、最近では多くの感染者が早期発見によりウィルスの働きを抑えながら社会生活を送れるようになったが、病气への誤解や偏見から検査を受けない人も多い。県内のある男性患者の事例から予防啓発に向けた課題を探った。」(阿部光希)

「もっと早く検査すれば良かったのでは」と後悔している。HIV検査を疑った。食料品の会社員男性は発症の2、3年前職を辞めた。49は9年前、自宅で、下痢が止まらなれ、搬送先の病院で、体がだるい、微熱を始めていた。エイズと診断された。熱が続く。思い当たる病名は、重度の肺炎を起し、4える際もあり、保健所に「会社を辞めたい」と相談した。

「今やエイズは死の病ではなく、慢性疾患と同じ。むしろ怖いのは放置して合併症を起すことだ。」(男性)

「今やエイズは死の病ではなく、慢性疾患と同じ。むしろ怖いのは放置して合併症を起すことだ。」(男性)

早期治療

「今やエイズは死の病ではなく、慢性疾患と同じ。むしろ怖いのは放置して合併症を起すことだ。」(男性)

第3種郵便物認可

きょう世界エイズデー 県エイズ医療等推進協議会・和田会長に聞く

県内の新規HIV感染者・エイズ患者数推移

年	HIV感染者	エイズ患者
2000	3	3
01	3	2
02	3	2
03	3	3
04	3	4
05	3	4
06	3	3
07	4	3
08	7	4
09	14	7
10	11	7
11	21	9
12	11	4
13	12	3

「県内の現状は、1994年、県内の2000年に入ってから、医療関係者で岡山HIV検査は08年の1474から感染者、患者ともV診療ネットワークを件をピークに減少が横増え、10年には計欠、立ち上げ、施設間の連携。先日は、HIVと過去最多になった。携や診療レベルの向上を促してきた。エイズ目別の安全検査をすり判明する「いきなりエ治療の拠点病院も10万本で輸血され、感染エイズが半数を占め、所整備され、医療水準は高い。早い段階で感、染が分かれれば薬で治、だ。その後、エイズを抑制、発症を防、た新規患者は減つてい、る。治療しながら仕、居が低いため忘れ、るが、病院や保健所の、事を続けるなど社会生、活を送っている人も少、ない。早期発見、治、療が重要だ。」

「検査は、非常に簡便で、検査しやすい。と、いうのも、検査の重要性だ。」

産業看護職向け研修も

「世界エイズデーにちなみ、県備前保健所は6日午後4時～7時、HIVの感染を調べ、臨時の夜間検査を岡山市中区京町の同保健所で行う。」

「HIV検査の周知と感染拡大の防止などが狙い。採血から1時間程度で結果が分かる即日検査か、1週間程度の通常検査を、比較して、検査を受ける人が、多い。検査を受けてい、る人の割合が全人口の2、%程度とされ、判明し、ていない感染者は氷山の、角、だ。早期発見・治療す、ることで、エイズへの、新たな感染を防ぐこと、が、一番の予防につなが、ることが広く知られてい、る。」

「今後の課題は、HIV感染者は同性間の性的接触によるものが7割超を占める。男性同士の性行為ではコンドームを、使わなかったり、出血し、やすいことから感染リス、クが高いとされる。男性、間の性感染症予防を啓、発している団体から話を聞、くなど、効果的な啓、発方法を考えたい。」

「検査の重要性が社会的にまだ認識されてい、ない。」

「日本は検査を受けてい、る人の割合が全人口の2、%程度とされ、判明し、ていない感染者は氷山の、角、だ。早期発見・治療す、ることで、エイズへの、新たな感染を防ぐこと、が、一番の予防につなが、ることが広く知られてい、る。」

Title

課題のまとめ

- HIV検査件数は増加したが、陽性者の早期発見はまだ不十分である。
- 本当に検査を必要としている人には、伝わっていない可能性がある。
- Transmission Networkに関連する検討は、なにもできていない。
- パートナー健診も不十分（川崎医学会誌一般教 35:11-17, 2009）。
- 行政、教育、マスメディア、医療が一体となった「チーム岡山」を目指す。